

小児科標ぼう医不在町村における 乳幼児健診・予防接種の 実施について:全国調査

広島国際大学医療経営学部
江原 朗

結果

- 乳幼児健診:ほとんどすべての町村が集団健診を実施しており、**約7割の町村が外部の医療機関から小児科医(主たる小児科標ぼう医)の派遣を受けていた。**
- 三種混合、ポリオおよび麻しん・風しんワクチンは、約8割の町村が個別接種を行っていたが、担当する医師の診療科を**小児科標ぼう医に限定する町村は集団接種・個別接種ともに約3割であった。**

目的

- 病院小児科が減少し、地域小児医療の荒廃が懸念されるが、小児科医がいない町村において小児保健事業がどう実施されているかについては不明である。
- そこで、全国の小児科医がいない町村における乳幼児健診や予防接種の実施について実態を明らかにする。

結果2

- 1歳6カ月児健診や3歳児健診の受診率は、市町村における小児科標ぼう医の有無で大きな差異を認めなかった。
- 1歳6カ月児健診における異常判定率は小児科標ぼう医不在町村で若干低かった。
- 小児科標ぼう医不在町村の平成23年度における接種率は、標ぼう医のいる市町村と比べて、**三種混合ワクチン1期追加やポリオワクチン2回目では低く、麻しん・風しん2期では若干高い傾向がみられた。**

方法

- 各市町村における小児科標ぼう医の有無は、平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚労省)によった。
- 小児科標ぼう医がいない町村における乳幼児健診および予防接種の実施方法、担当する医師の標ぼう診療科および医師の派遣元については、各町村の母子保健部局に**アンケート調査(H25.12)**を行った。
- 乳幼児健診および予防接種の対象者数、受診・接種者数、ならびに乳幼児健診における異常判定率は、平成23年度地域保健・健康増進事業報告(厚労省)から引用した(この時期は三種混合の実施)。

市町村の小児科標ぼう医の有無と 乳健受診割合, 異常判定割合(H23)

	1歳6カ月児健診 小児科標ぼう医		3歳児健診 小児科標ぼう医			
	あり	P値	なし	あり	P値	なし
市町村数	1,507		231	1,507		231
対象者数	1,096.4		8,289	1,111,309		8,701
	62					
受診者数	1,035.2	0.000	7,737	1,021,521	0.017	8,059
	54					
受診割合	94.4%		93.3%	91.9%		92.6%
判定						
異常なし	717,362		5,735	692,098		5,626
異常あり	269,778	0.003	1,998	292,012	0.491	2,414
異常判定割合	27.3%		25.8%	29.7%		30.0%

市町村における小児科標ぼう医の有無と予防接種割合(H23)

	小児科標ぼう医	
	あり	なし
市町村数	1,507	231
三種混合1期追加		
対象者数	1,447,932	12,888
接種者数	1,073,652	8,099
接種割合	74.2%	*62.8%
ポリオ2回目		
対象者数	1,436,011	12,267
接種者数	876,264	7,080
接種割合	61.0%	*57.7%
麻しん・風しん2期		
対象者数	1,088,471	8,945
接種者数	988,688	8,188
接種割合	*90.8%	91.5%

結論

- 小児科医がない町村の多くは、乳幼児健診については集団健診を実施し、小児科標ぼう医の派遣を他の市町村から受けていた。
- 予防接種では各医療機関に個別接種を委託し、担当医を小児科標ぼう医に限定している町村は少なかった。
- 乳幼児健診の受診率は標ぼう医がいる市町村と比べて大差がないが、予防接種率については三種混合、ポリオワクチンでは低く、麻しん・風しんワクチンでは若干高い傾向が認められた。
- 本研究は、「公益財団法人ユニベール財団」の助成を受けました。